

## 集会アピール

輸送サービス労組水戸地本は、3月13日、「ビズコンフォート水戸」において「不当労働行為根絶！ベースアップ実現！あらゆるたたかひの“高揚”で健全な JR 東日本をつくり出す緊急集会」を開催し、同日、東京都労働委員会に受理された「不当労働行為救済申立の勝利」と「2023年賃金引上げの満額回答」に向けたたたかひの意思統一を行った。

板倉副委員長の強制配転は、本人希望が一切無視され、遠隔地への異動によって家族と引き裂かれたばかりか長時間の通勤が伴う不利益を被った。また、地本副委員長の任務を全うするための「時間」が失われ、組合運営上の不利益が発生している。そして、この強制配転は輸送サービス労組に所属していると不利益を被ると示唆して組合員や組合未加入者を委縮させ、組織弱体化と組織拡大阻止が行われている「象徴的」な事案であり、まさに二重三重の不当労働行為だ。救済申立の勝利を通じて、板倉副委員長の元職場復帰と JR 東日本会社の不当労働行為体質を是正しなければならない。

輸送サービス労組結成以降、これまで24名の組合員が強制配転に対して簡易苦情処理申告を行った。運転士から駅への希望しない強制配転をはじめとして、遠隔地への強制配転によって組合員が退職の道を選択するなど、多くの組合員が苦しめられてきた。また、今なお家族の介護や看護、子育てに悩み苦しんでいる仲間が多く存在している。私たちは、このような現実に向き合っている“仲間”の思いに立ち、救済命令の実現に向けた取り組みを強化していかなければならない。そして、今後も組合差別の強制配転が繰り返されるのであれば、その事実を「新たな証拠」として救済申立に盛り込み、不当労働行為の証拠を積み上げていく。

問題の本質は、JR 東日本の労働組合軽視・敵視の企業体質にある。それは、18春闘以降の露骨な経営姿勢を見れば明らかだ。この間、私たちはダイヤ改正や中編成ワンマン運転をはじめとした施策の問題に対し、信義誠実に労使協議を行ってきた。しかし会社は、都合の良い主張を貫き通し、現場で発生している問題や労働者の声に向き合おうとしていない。また、障がいを持つ仲間に対する差別やパワーハラスメントなどに表れているように、「人」を大切にしない企業風土が職場にまで浸透している。そして、「紹興酒問題」で明らかになった経営陣の醜態と「現場感覚の欠如」がその経営姿勢を端的に示している。このような企業体質を変えていくためにも「法人格」を取得した意義を改めて捉え返し、「第三者機関の活用方針」を実践し続け、健全な JR 東日本会社を取り戻さなければならない。

脱退パワハラ訴訟は、証人尋問に立った仲間たちの堂々たる証言によって脱退勧奨の事実を満天下に明らかにし、まもなく結審を迎えようとしている。また、バス棚倉の救済申立は中労委判断で全部救済命令が覆されたものの、会社が組織的に行った脱退強要を「不当労働行為」と断定しており、実質的な勝利を確認してきた。そして、新たに東京・八王子地本の「救済申立」が受理され、不当労働行為に対するたたかひがさらに強化されてきている。“仲間のため”にたたかう労働組合として、組織の総力を挙げてすべてのたたかひの勝利を掴み、「反転攻勢」に転じていこうではないか。

今、会社は JR 発足以来の「最大の変革」として組織再編などの施策を進め、36路線72区間の「赤字ローカル線の公表」や「4000人削減」を打ち出している。しかし、これらが「やること重視」の至上命題により進められれば、必ず安全や教育など重要なものが抜け落ちる。また、「新 JINJREの初期設定」などの賃金不払いなどに現れるように、労働基準法違反などのコンプライアンス違反が発生する。すべてのしわ寄せは現場で汗し働く労働者にくることは言うまでもない。私たちは、このような問題を黙って見過ごすことなく、JR東日本グループで働くすべての仲間と JR 東日本の未来を守るために職場から「声」を上げ続けていく。

2023年賃金引上げの取り組みは、まもなく回答指定日を迎える。今こそ、仲間と家族の生活の豊かさを実現するための“物価高に負けないベースアップの実現”に向け、あらゆるたたかひを“高揚”させていくべき時だ。そして、救済申立勝利に向けた取り組みを強化して「真に人を大切にする JR 東日本会社」と“生きがい”と“働きがい”が実感できる職場をつくり出し、輸送サービス労組水戸地本のさらなる組織強化・拡大の実現に向け奮闘しようではないか！

2023年3月13日  
不当労働行為根絶！ベースアップ実現！  
あらゆるたたかひの“高揚”で健全な  
JR 東日本をつくり出す緊急集会